

# 八風道



## 八風道の概要

八風道は、四日市市の富田一色を起点とし、大矢知、平津を経て菰野町田光で南からの巡見道と出会う。それからは八風越えの道として八風峠を越え、滋賀県に入り、八日市まで続く道で、さらに中山道に結ぶ。八風峠越えの道は、伊勢と近江を結ぶ交易路として鎌倉時代の頃から盛んに利用されていた。江戸時代に入ると次第に寂れたが、近江の愛知川上流沿いの山村は距離的に近い伊勢側の田光に食糧や衣類などの生活用品を求めることが多く、田光や切畑では、峠越えの荷物を運ぶ背負人夫が活躍した。今は古道ハイキングのコースとして親しまれている。

文政6年（1823）、大矢知に武蔵国（現 埼玉県）忍藩の陣屋が置かれると、八風道は朝明郡各村の年貢米が輸送される幹線となり、富田一色の港は米の積み出し港として発展していった。その大矢知周辺は、今も手延素麺の特産地となっている。大矢知手延素麺は、幕末の頃から農閑期の農家の副業として受け継がれてきた素麺で、ほんのりと甘みのある伝統の味が評判を呼んでいる。厳寒期に外に干された白い素麺の糸が簾を掛けたように陽光に映える姿は、道行く人の目を楽しませてくれる。

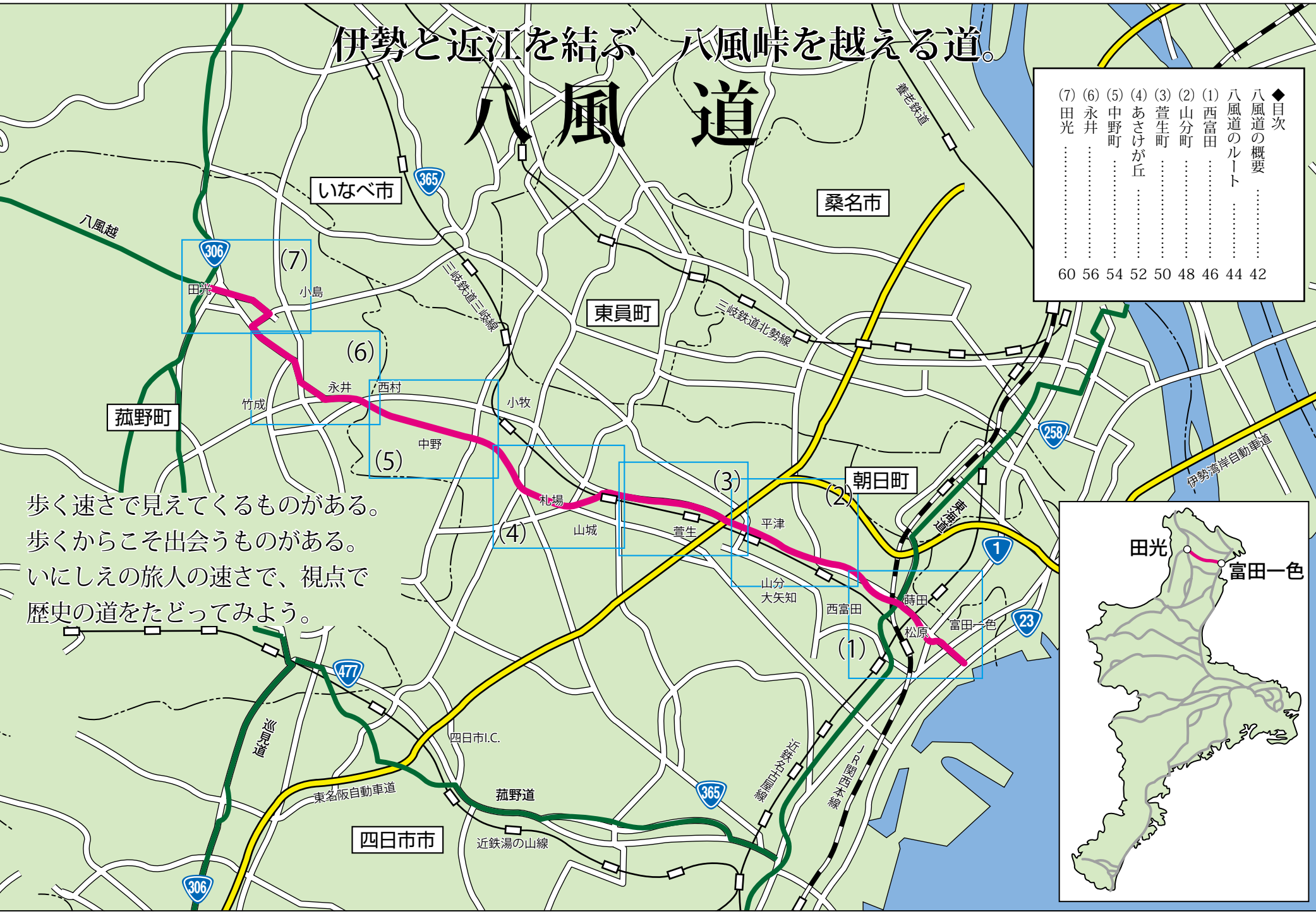
大矢知を後にした道は、朝明川の南側沿いを菰野町へ進む。菰野町永井にある西信寺は、滋賀県日野町照光寺の末寺で、峠を越えた交流を伝えている。昔はこの辺りは、滋賀県の八日市とも通婚圏だったという。

竹成にある大日堂の境内には、三重県指定の史跡五百羅漢がある。慶応2年（1866）の完成までに約15年を費やした小高い山の石像群は、東側を正面とし、釈迦三尊を主尊とする羅漢像と、大日如来を中心とする密教系の群像、さらには七福神に役の行者、三猿、雨天童子など、神も仏も入りまじった当時の庶民信仰の多彩さがうかがえる。

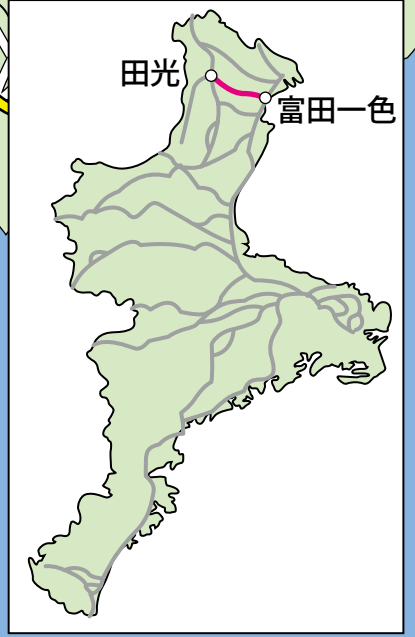
伊勢と近江を結ぶ 八風峠を越える道。

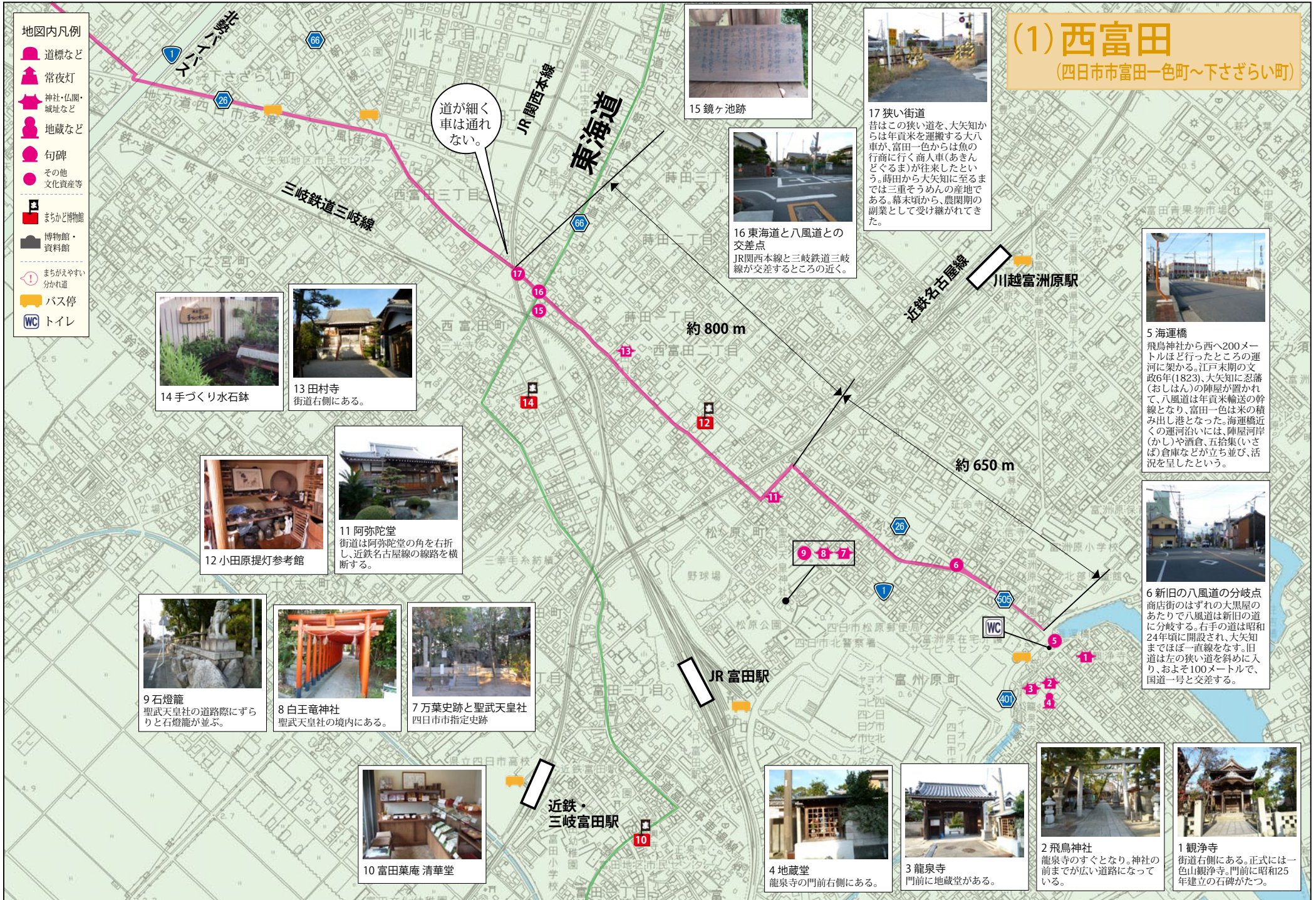
# 八風道

|           |       |    |
|-----------|-------|----|
| ◆ 目次      | ..... | 42 |
| 八風道の概要    | ..... | 44 |
| 八風道のルート   | ..... | 46 |
| (1) 西富田   | ..... | 48 |
| (2) 山分町   | ..... | 50 |
| (3) 萱生町   | ..... | 52 |
| (4) あさけが丘 | ..... | 54 |
| (5) 中野町   | ..... | 56 |
| (6) 永井    | ..... | 60 |
| (7) 田光    | ..... | 66 |



歩く速さで見えてくるものがある。  
 歩くからこそ出会うものがある。  
 いにしへの旅人の速さで、視点で  
 歴史の道をたどってみよう。





**(1) 西富田**  
(四日市市富田一色町～下さざらい町)

- 地図内凡例
- 道標など
  - 常夜灯
  - 神社・仏閣・城址など
  - 地蔵など
  - 句碑
  - その他文化遺産等
  - まちかど博物館
  - 博物館・資料館
  - まちがえやすい分かれ道
  - バス停
  - トイレ

道が細く車は通れない。



15 鏡ヶ池跡



17 狭い街道  
昔はこの狭い道を、大矢知からは年貢米を運搬する大八車が、富田一色からは魚の行商に行く商人車(あきんどぐるま)が往来したという。時田から大矢知に至るまでは三重そうめんの産地である。幕末頃から、農閑期の副業として受け継がれてきた。



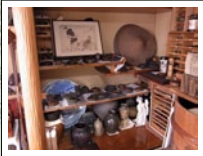
16 東海道と八風道との交差点  
JR関西本線と三岐鉄道三岐線が交差するところの近く。



14 手づくり水石鉢



13 田村寺  
街道右側にある。



12 小田原提灯参考館



11 阿弥陀堂  
街道は阿弥陀堂の角を右折し、近鉄名古屋線の線路を横断する。



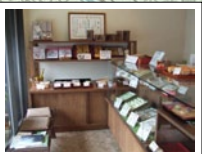
9 石燈籠  
聖武天皇社の道路際にずらりと石燈籠が並ぶ。



8 白王竜神社  
聖武天皇社の境内にある。



7 万葉史跡と聖武天皇社  
四日市市指定史跡



10 富田薬庵 清華堂



4 地藏堂  
龍泉寺の門前右側にある。



3 龍泉寺  
門前に地藏堂がある。



2 飛鳥神社  
龍泉寺のすぐとなり。神社の前までが広い道路になっている。



1 観浄寺  
街道右側にある。正式には一色山観浄寺。門前に昭和25年建立の石碑がたつ。



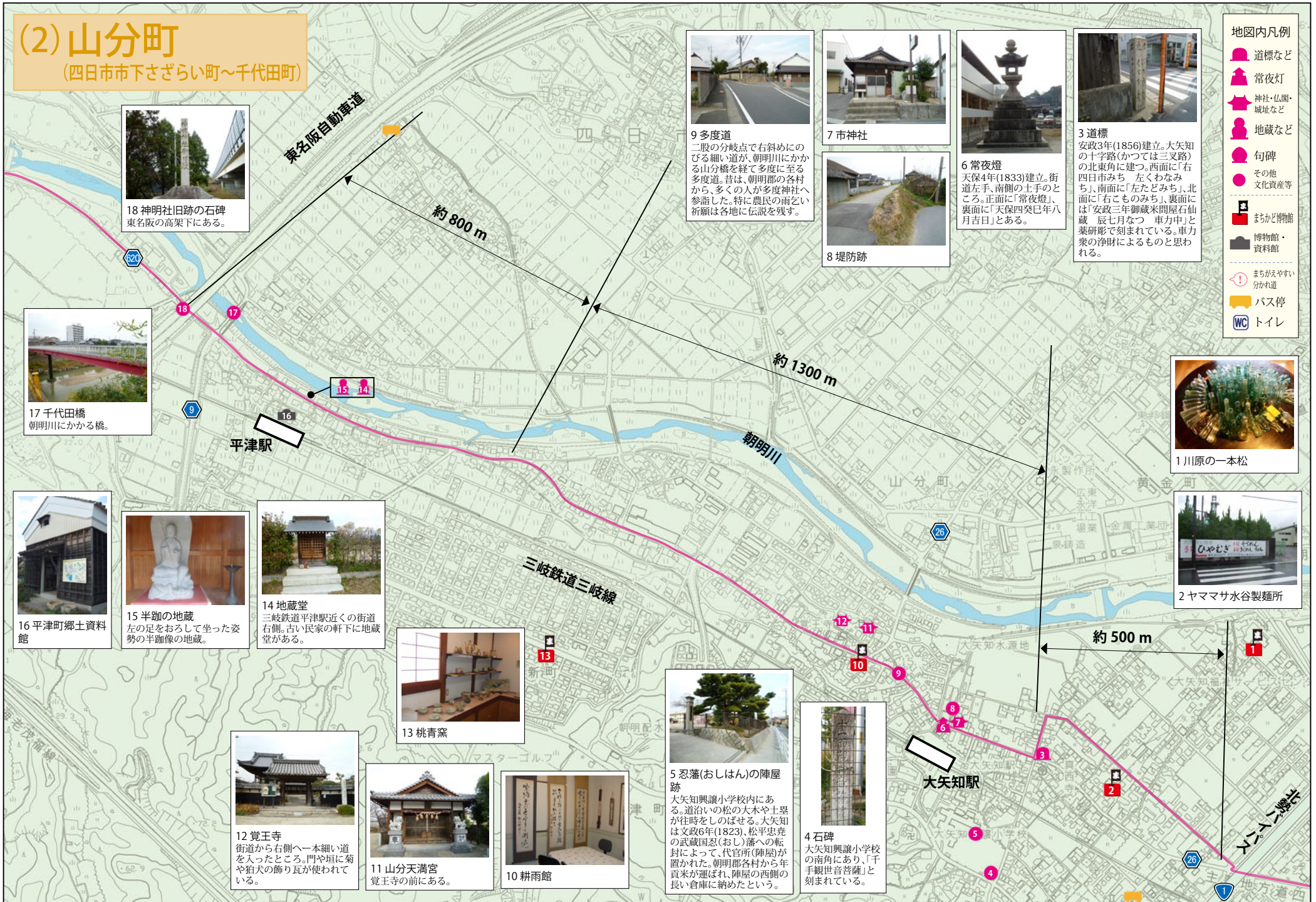
5 海運橋  
飛鳥神社から西へ200メートルほど行ったところの運河に架かる。江戸末期の文政6年(1823)、大矢知に忍藩(おしはん)の陣屋が置かれて、八風道は年貢米輸送の幹線となり、富田一色は米の積み出し港となった。海運橋近くの運河沿いには、陣屋河岸(かし)や酒倉、五拾集(いさば)倉庫などが立ち並び、活況を呈したという。



6 新旧の八風道の分岐点  
商店街のはずれの大黒屋のあたりで八風道は新旧の道に分岐する。右手の道は昭和24年頃に開設され、大矢知までほぼ一直線をなす。旧道は左の狭い道を斜めに入り、およそ100メートルで、国道一号と交差する。

## (2) 山分町

(四日市市下さざらい町~千代田町)



### 地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地蔵など
- 句碑
- その他文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ



18 神明社旧跡の石碑  
東名阪の高架下にある。



9 多度道  
二股の分岐点で右斜めにのびる細い道が、朝明川にかかる山分橋を経て多度に至る多度道。昔は、朝明郡の各村から、多くの人が多度神社へ参詣した。特に農民の雨乞いの祈願は各地に伝説を残す。



7 市神社



3 道標  
安政3年(1856)建立。大矢知の十字路(かつては三叉路)の北東角に建つ。西面に「右四日市みち 左くわなみち」、南面に「左たどみち」、北面に「右こものみち」、裏面には「安政三年御蔵米問屋石仙蔵 辰七月なつ 車力中」と薬研彫で刻まれている。車力衆の浄財によるものと思われる。



3 道標  
安政3年(1856)建立。大矢知の十字路(かつては三叉路)の北東角に建つ。西面に「右四日市みち 左くわなみち」、南面に「左たどみち」、北面に「右こものみち」、裏面には「安政三年御蔵米問屋石仙蔵 辰七月なつ 車力中」と薬研彫で刻まれている。車力衆の浄財によるものと思われる。



8 堤防跡



17 千代田橋  
朝明川にかかる橋。



15 14

平津駅



16 平津町郷土資料館



15 半跏の地藏  
左の足をおろして坐った姿勢の半跏像の地藏。



14 地藏堂  
三岐鉄道平津駅近くの街道右側。古い民家の軒下に地藏堂がある。



13 桃青窯



12 覚王寺  
街道から右側へ一本細い道を入ったところ。門や垣に菊や狛犬の飾り瓦が使われている。



11 山分天満宮  
覚王寺の前にある。



10 耕雨館



5 忍藩(おしはん)の陣屋跡  
大矢知興譲小学校内にある。道沿いの松の太木や土塁が往時をしのぼせる。大矢知は文政6年(1823)、松平忠亮の武蔵国忍(おし)藩への転封によって、代官所(陣屋)が置かれた。朝明郡各村から年貢米が運ばれ、陣屋の西側の長い倉庫に納められたという。



4 石碑  
大矢知興譲小学校の南角にあり、「千手観世音菩薩」と刻まれている。



1 川原の一本松



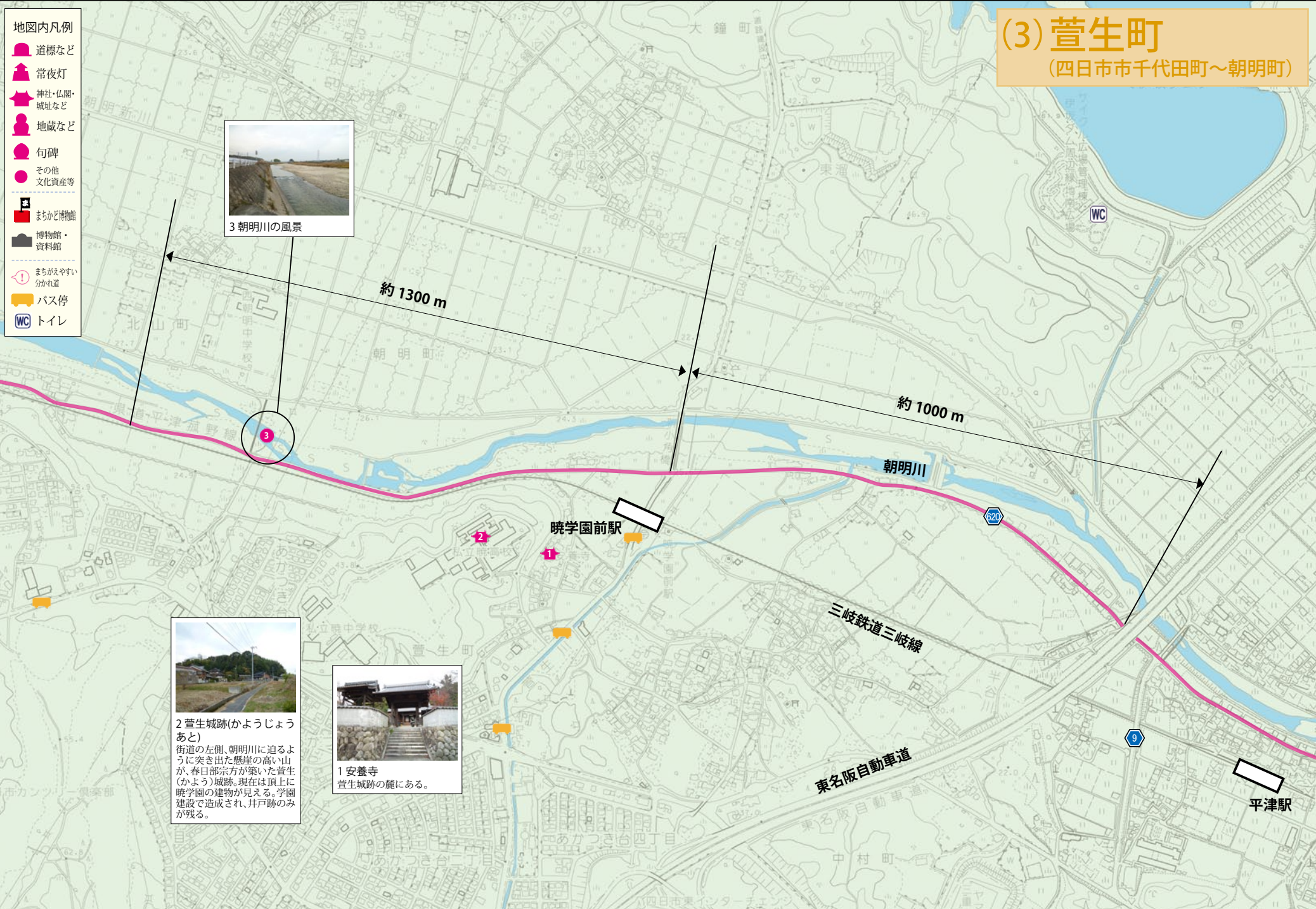
2 ヤママサ水谷製麦所

約 500 m

約 800 m

約 1300 m

### (3) 萱生町 (四日市市千代田町～朝明町)



3 朝明川の風景

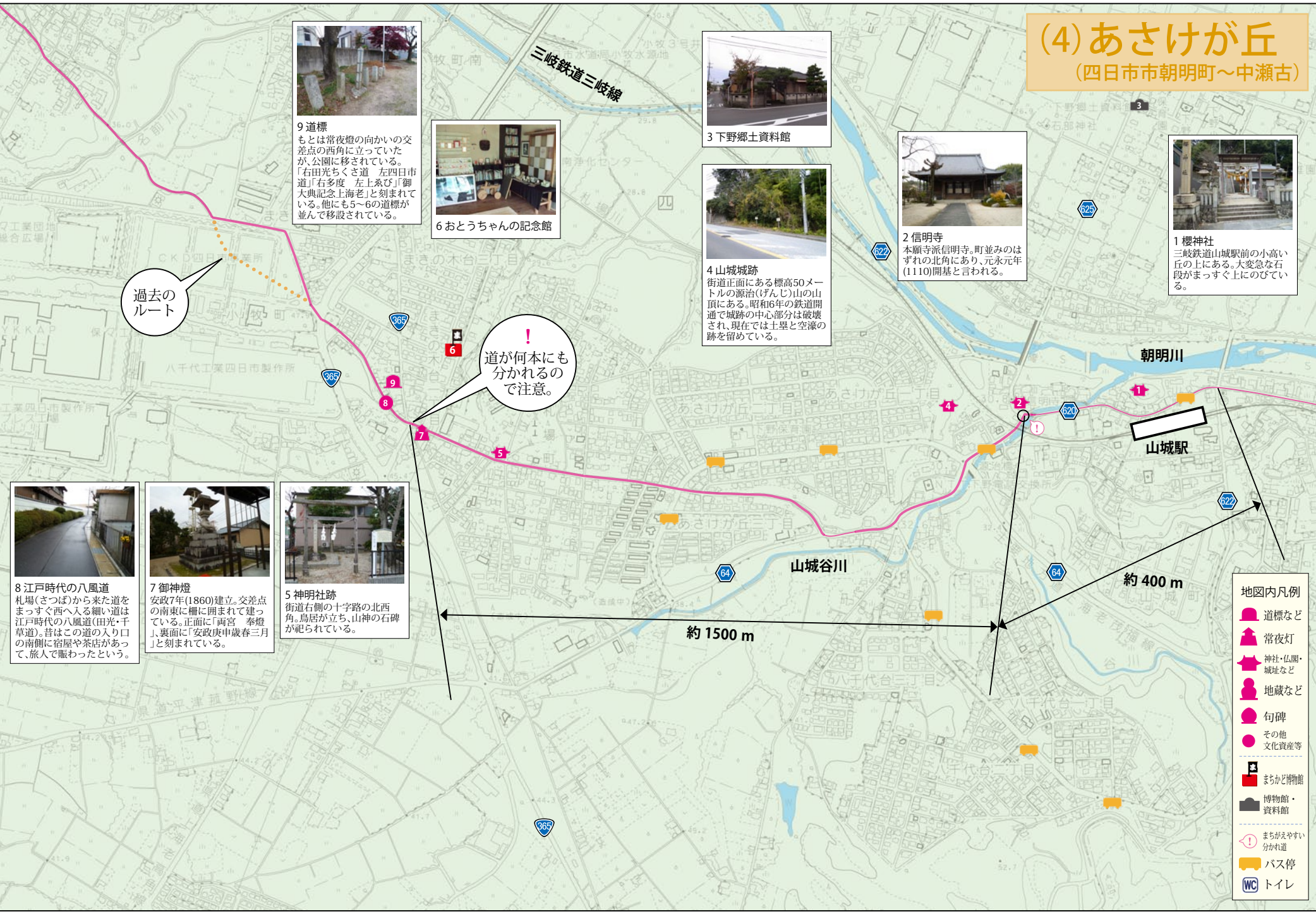


2 萱生城跡(かようじょうあと)  
街道の左側、朝明川に迫るように突き出た懸崖の高い山が、春日部宗方が築いた萱生(かよう)城跡。現在は頂上に暁学園の建物が見える。学園建設で造成され、井戸跡のみが残る。



1 安養寺  
萱生城跡の麓にある。

# (4) あさけが丘 (四日市市朝明町～中瀬古)



**9 道標**  
もとは常夜燈の向かいの交差点の西角に立っていたが、公園に移されている。「右田光ちくさ道 左四日市道」「右多度 左上桑び」「御大典記念上海老」と刻まれている。他にも5～6の道標が並んで移設されている。



**6 おとうちゃんの記念館**



**3 下野郷土資料館**



**4 山城城跡**  
街道正面にある標高50メートルの源治(げんじ)山の山頂にある。昭和6年の鉄道開通で城跡の中心部分は破壊され、現在では土塁と空壕の跡を留めている。



**2 信明寺**  
本願寺派信明寺。町並みのはずれの北角にあり、元永元年(1110)開基と言われる。



**1 櫻神社**  
三岐鉄道山城駅前の小高い丘の上にある。大変急な石段がまっすぐ上にのびている。

過去のルート

！  
道が何本にも分かれるので注意。



**8 江戸時代の八風道**  
札幌(さつぱ)から来た道をまっすぐ西へ入る細い道は江戸時代の八風道(田光・千草道)。昔はこの道の入り口の南側に宿屋や茶店があって、旅人で賑わったという。



**7 御神燈**  
安政7年(1860)建立。交差点の南東に柵に囲まれて建てられている。正面に「両宮 奉燈」、裏面に「安政庚申歳春三月」と刻まれている。



**5 神明社跡**  
街道右側の十字路の北西角。鳥居が立ち、山神の石碑が祀られている。

- 地図内凡例
- 道標など
  - 常夜灯
  - 神社・仏閣・城址など
  - 地蔵など
  - 句碑
  - その他文化資産等
  - まちかど博物館
  - 博物館・資料館
  - まちがえやすい分かれ道
  - バス停
  - トイレ

約 1500 m

約 400 m

# (5) 中野町

(四日市市中瀬古～上條)



### 地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地蔵など
- 句碑
- その他文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ



**13 野面石の道標**  
大字永井字左ヶ谷(ぎつちよ)の辻にある。「右四日市道 左くわな道」と刻まれている。



**12 墓地**



**14 布あそび「しばた」**



**10 地蔵堂**  
県道菟野東員線の左側で、道標の小道を挟んだ向かい側にある。



**9 道標**  
街道から県道菟野東員線を右に折れ200メートルほど行った所にある。街道左側で、「山川漢月翁先生の碑」の下、「左四日市 右こもの□□」と刻まれている。



**11 秤乃館**



**2 天春家(あまがすけ)**  
元禄から明和年間にかけて代々大庄屋を勤めた家。屋敷は城主依藤太郎居城の中野城跡で、屋敷の西側には杉の大木が、南側には小さな堀があった。



**3 道標**  
行円寺前にある。「右桑名 左たど」と刻まれている。



**4 行円寺**  
真宗大谷派行円寺。依藤太郎の遺物とされる宝珠硯(古硯)があるという。この硯は「すらすの硯」ともいわれ、水を注ぐと墨をすらすらなくても墨になるという。



**8 専照寺**  
真宗本願寺派専照寺。この寺は、昭和初期に建立されたが、当時は一面桑畑で人家はなかったという。



**7 道標**  
地蔵堂と小道を挟んで右側にある。「右小島」「左古もの」と刻まれている。年代は明らかではないが、朝明川沿いに永井・小島に至る現在の八風道が開通する明治中期以前の小島道と思われる。



**6 北向き地蔵**  
霊験あらたかな地蔵として信仰を集めている。



**5 墓地**

昔ながらの農村的な風景が続く。

約 500 m

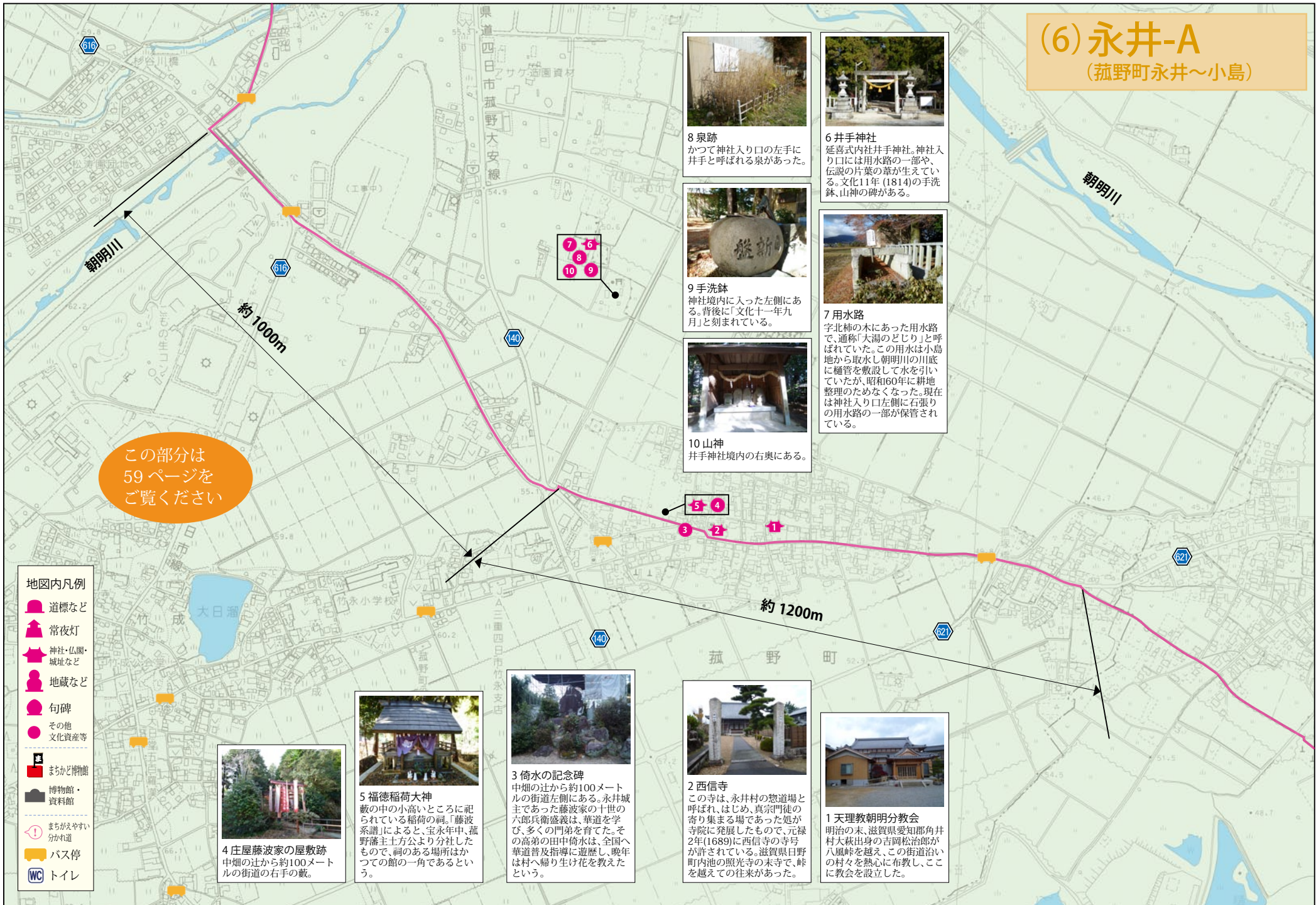
約 500 m

! 細い道に入る。

保々駅

三岐線

## (6) 永井-A (菰野町永井～小島)



この部分は  
59 ページを  
ご覧ください



**8 泉跡**  
かつて神社入り口の左手に井手と呼ばれる泉があった。



**6 井手神社**  
延喜式内社井手神社。神社入り口には用水路の一部や、伝説の片葉の葎が生えている。文化11年(1814)の手洗鉢、山神の碑がある。



**9 手洗鉢**  
神社境内に入った左側にある。背後に「文化十一年九月」と刻まれている。



**7 用水路**  
字北柿の木にあった用水路で、通称「大湯のどじり」と呼ばれていた。この用水は小島地から取水し朝明川の川底に樋管を敷設して水を引いていたが、昭和60年に耕地整理のためなくなった。現在は神社入り口左側に石張りの用水路の一部が保管されている。



**10 山神**  
井手神社境内の右奥にある。



- 地図内凡例
- 道標など
  - 常夜灯
  - 神社・仏閣・城址など
  - 地蔵など
  - 句碑
  - その他
  - 文化資産等
  - まちかど博物館
  - 博物館・資料館
  - まちがえやすい分かれ道
  - バス停
  - トイレ



**4 庄屋藤波家の屋敷跡**  
中畑の辻から約100メートルの街道の右手の敷。



**5 福徳稲荷大神**  
敷の中の小高いところに祀られている稲荷の祠。「藤波系譜」によると、宝永年中、菰野藩主土方公より分社したもので、祠のある場所はかつての館の一角であるという。



**3 倚水の記念碑**  
中畑の辻から約100メートルの街道左側にある。永井城主であった藤波家の十世の六郎兵衛盛義は、華道を学び、多くの門弟を育てた。その高弟の田中倚水は、全国へ華道普及指導に遊歴し、晩年は村へ帰り生け花を教えたという。



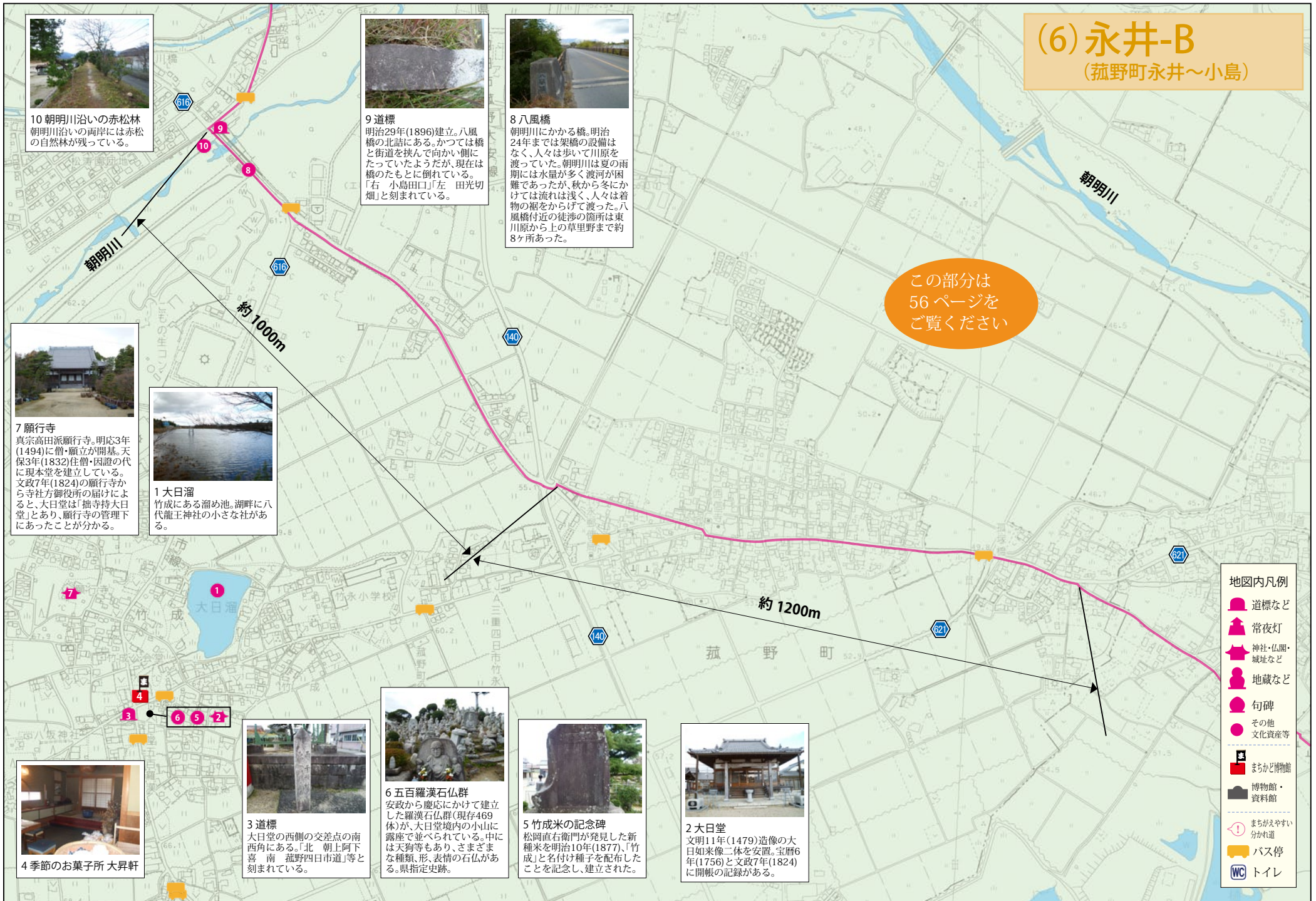
**2 西信寺**  
この寺は、永井村の惣道場と呼ばれ、はじめ、真宗門徒の寄りに発展したもので、元禄2年(1689)に西信寺の寺号が許されている。滋賀県日野町内地の照光寺の末寺で、峠を越えての往来があった。



**1 天理教朝明分教会**  
明治の末、滋賀県愛知郡角井村大萩出身の吉岡松治郎が八風峠を越え、この街道沿いの村々を熱心に布教し、ここに教会を設立した。



## (6) 永井-B (菰野町永井～小島)



10 朝明川沿いの赤松林  
朝明川沿いの両岸には赤松の自然林が残っている。



9 道標  
明治29年(1896)建立。八風橋の北詰にある。かつては橋と街道を挟んで向かい側にたっていたようだが、現在は橋のたもとに倒れている。「右 小島田口」「左 田光切畑」と刻まれている。



8 八風橋  
朝明川にかかる橋。明治24年までは架橋の設備はなく、人々は歩いて川原を渡っていた。朝明川は夏の雨期には水量が多く渡河が困難であったが、秋から冬にかけては流れは浅く、人々は着物の裾をからげて渡った。八風橋付近の徒渉の箇所は東川原から上の草里野まで約8ヶ所あった。

この部分は  
56 ページを  
ご覧ください



7 願行寺  
真宗高田派願行寺。明応3年(1494)に僧・願立が開基。天保3年(1832)住僧・因證の代に現本堂を建立している。文政7年(1824)の願行寺から寺社方御役所の届けによると、大日堂は「拙寺持大日堂」とあり、願行寺の管理下にあったことが分かる。



1 大日溜  
竹成にある溜め池。湖畔に八代龍王神社の小さな社がある。



4 季節のお菓子所 大昇軒



3 道標  
大日堂の西側の交差点の南西角にある。「北 朝上阿下喜 南 菰野四日市道」等と刻まれている。



6 五百羅漢石仏群  
安政から慶応にかけて建立した羅漢石仏群(現存469体)が、大日堂境内の小山に露座で並べられている。中には天狗等もあり、さまざまな種類、形、表情の石仏がある。県指定史跡。



5 竹成米の記念碑  
松岡直右衛門が発見した新種米を明治10年(1877)、「竹成」と名付け種子を配布したことを記念し、建立された。



2 大日堂  
文明11年(1479)造像の大日如来像二体を安置。宝暦6年(1756)と文政7年(1824)に開帳の記録がある。

### 地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地蔵など
- 句碑
- その他文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ

# (7) 田光

(菰野町小島～田光)



**7 道標**  
田東の辻に立つ。「右 とみた四日市道」「左 くわな道」と刻まれている。明治30年ごろ、四日市道・桑名道が改修されてから建立された道標。



**6 福王山墓**  
金蔵寺の南側にある。



**5 象の彫り物**  
金蔵寺の本堂の一部に象などの彫り物が施されている。



**4 金蔵寺**  
小島の集落の中央にある。



**3 指勘建具工芸**



**9 交易市場跡**  
巡見道と八風道が交わる十字路の北西角。低い石垣に囲まれた広場になっている。



**8 田光札の辻**  
八風道と巡見道との合流点。里程標は隣の交易市場跡に移されている。

**地図内凡例**

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地蔵など
- 句碑
- その他
- 文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ



**2 手洗鉢**  
安永5年(1776)建立。耳常神社境内にある。



**1 耳常神社**  
小島の集落の東南にある。

約 1400 m